



ヒガチナカチとらぶらぶ
恋入ネカチ!

最近、自分にも可愛い彼女ができた。
優しくて、可愛くて、おっぱいの大きい素敵な女の子だ。

料理上手で、気立てもよく、家事も完璧…
そしてエッチにも寛容(重要)まさに理想の彼女である。



しかし、彼女には一つだけ
付き合う前は思いもよらなかった才能が…

下半身の
毛を剃る準備が完了、目を瞑る準備
が完了した……

んっ♡
んちゅっ♡
じゅるる……♡

じゅるる♡
じゅるる♡



あ、んっ……♡
起きた。

クマちゃん……
何してるのかな

ん？
ふえあちおー♡

ら、そ、う、い、い、と、い、う、は、な、く、て、……

愛おしそうに、それをしゃぶるこの子は、ヒグマちゃん。
ヒグマが人間の女の子の姿になった、フレンズという存在だ。

少し前に彼女との初エッチをしたのだが
処女をもらってから、彼女は変わった。

彼女はどうかやら、エッチに寛容どころか
エッチなこと全般に目覚めてしまったらしく
気づけば、こうして布団にもぐり込んで
嬉しそうに、おしゃぶりをしてくる。

んーっ♡
やっぱりおちんちん好き♡

屈託の無い笑顔で
幸せそうに、しゃぶってくれる
彼女の頭を撫でると
彼女は目を細めて、微笑んだ。

ちゅる♡

しゃぶる♡

しゃぶる♡

ん♡

んっ♡んちゅ♡
おちんちん気持ちいい？

エッチに目覚めた彼女は
おしゃぶりの研究にも余念が無い。

ちゅる♡

裏側を丹念に舐めてくれたり
ゆっくりと根元までくわえてくれたり…
とにかく僕の感じるところを探しては、攻めてくる。
気持ちいいに決まってる、と言ってもう一度頭を撫でる。

えへへ、嬉しい♡
このままおくちの中にいっぱい
せーし出していいぞ♡

じゅっ♡
じゅる♡

うんっ
もう精子射精そうだよ...

へっ♡
出せ出せ♡
お口のなかで、びゅーって♡

んっ♡

ちゅる♡

むちゅ♡

ちゅる♡

ちゅる♡

んっ♡

そう言いながら
ヒグマちゃんば、しゃぶる速度をあげる。
射精させる為の、しゃぶり方だ。

クマちゃん...射精るよっ...!

せーし来るっ♡
飲ませて飲ませてっ♡

ちゅる♡
ぽ♡

射精するよっ!

んんんんんん

びゅん

びゅん

♡♡

んんん♡



ううっ
クマちゃん……
飲んで……精子飲んで……!



まるで母親のミルクを飲むように
愛おしそうに喉を鳴らせて
精液を飲む彼女の姿に
僕は止まらない射精を繰り返した。

ぷんっ
ぷはあ……♡

あああ
気持ち良かったよー

ふふ
私も朝からせーし飲んで
すっごく幸せだぞー♡

……そんなに美味しいのだからか
そう聞いてみると、彼女は幸せそうに言った。

大好きな人のせーしだからなっ♡

ちゅ♡

んちゅ♡

とろ♡

ごくくん、と満足そうに精液を
飲み干したヒグマちゃん……。

その後もお掃除フェラをしてあげる、と言いながら
楽しそうに、しゃぶるものだから
結局もう一度、彼女の口の中で射精してしまった。

2回目の精液も嬉しそうに飲む彼女を
じっと見ていたら
「おまえも飲んでみるか？」なんて言いながら
精液を口に含んだままキスをねだってきたが
流石にそれは辞退した。(汗)

大好きでエッチな彼女との生活は
毎日こんな感じで始まるのである。

彼女の性欲に、僕の体……もつかない

精液を堪能したららしいヒグマちゃんは
てきぱきと家事をしてくれる。

そこまで彼女にさせるわけにはいかない
と言っているのだが……

元々世話好きなのか
ヒグマちゃんは笑顔で全部やってしまうのだ。

嬉しそうに、家事をするヒグマちゃんを見てみると
それ以上は何も言えずに、家事を任せてしまおう……
僕はだんだんだめになっていくような気がしつつも
彼女とのこれからの生活に想い馳せると
自然と笑顔になった。

家事が終わって一息ついた彼女に
いつもありがとう、何か欲しいものは無い？
と聞くと

彼女は切なそうに、「こちらにお尻を向けて言った。

「ほうびなら……欲しいものあるかも♡

スパッツを脱いで
こっちはお尻を向ける「グマちゃん」。

体で払ってもらおう……♡
とか言っちゃったり……してもいい？

ふ、りん♡

何回か……
何回か……



んっ♡
そっ、もっと触って……♡

おまの「」の割れ目を
ちよつと指でなぞるだけで
愛液がじわじわと染みだしてくる。

相変わらず
クマちゃんの「」、えっちなね

16#

だつてえ……
おまえと一緒にいるだけで
すぐに濡れちゃうんだもん……♡



もう欲しい...♡
おちんちん、ま〇こに入れてえ♡

そう言ってお尻を振るヒグマちゃん。
僕は彼女の腰を、がっしり掴み
一気に彼女の膣内に突き入れた。



やあああんっ♡
おちんちんっ
おま〇こに入ってきたあ♡

ずちやう...♡

あま
あま♡

ヒグマちゃんの膣内は、挿入れた途端に
待ち焦がれていたをモノ手にした子供のようた
僕のをぎゆうぎゆうと締め付けた。

すき♡♡♡
やっぱりおちんちん入れてもらうの好きっ♡
突いて！おま〇こ突いてっ♡

あま♡
あま♡



あんっ♡
んんっ♡
気持ちいいねっ♡
せつくす、気持ちいいねっ♡

こんな、んっ♡
ま〇こ気持ちよくしてくれる
おちんちんすごいなっ♡
好きな人におちんちん入れてもらおうの
すっごい幸せだぞっ♡

ぬっ♡

ずちゅっ♡
ずちゅ

快感を分かち合えることが
本当に幸せそうに
笑顔で腰を振るヒグマちゃん。

あめっ♡

あめっ♡

あめっ♡

んんーっ♡
もうイキそうっっ♡
イクイクっ……♡

快感の頂点に達しようとして
ヒグマちゃんの膣内が、より一層締まる。
雄の精液を求め、
雌としての本能だろうか。

ほっ♡
ほっ♡

っゅん♡
っゅん♡

っゅん♡

ぬん♡

っゅん♡
っゅん♡

っゅん♡

っゅん♡

せっし出してっ!!
ま〇こに欲しいっ♡
あっつい中出しせーしてイキたいのっ!!

ほっ♡
ほっ♡

ほっ♡
ほっ♡

あっ

そんなに締め付けたら・
射精するよ……クマちゃんっ！

出して出してっ！
中にっ、一番気持ちいいっ！
おまのこの一番奥でっ！
びゅーっしてっ！

射精すよっ！
クマちゃんのおまの奥……
子宮に精子射精すよっ……



子宮の中にせーしっ
いっぱい注がれてるっ
気持ち良すぎるっ…

膣内射精の快感に
びくびくと体を痙攣させて喘ぐ彼女を見て
止まらない興奮を彼女の子宮に注ぎ込んだ。

ぜんぶっ…
全部出し切るまで
おちんちん抜いちやダメだぞっ…



彼女のおま○こから引き抜くと
彼女の膣内に
収まりきらなかった精液が
音を立てて溢れた。

んんっ♡いっぱい出たなー♡
子宮の中がせーしで、満ちてくのって
なんでこんなに幸せなんだろうな♡

膣内射精の余韻に
びくびくと震える彼女のお尻を見て
僕は少し悪いことを思いついた。

ん…？
どうした、もう一回
ま○こに入りたいのか？



え……っ
そっちはお尻だぞっ……

精液と愛液で
どろどろになった彼女のアナルに
一気に突き入れた。

おんんちん……っ
おんんちんが、お尻に入っ……っ

はあ
はあ
はあ

はあ
はあ

衝動に任せて、挿入してしまったので
思わず心配して声をかけるが
彼女は、恍惚の表情で大丈夫と頷いた。

ぬぷらっ♡



彼女は初めての体験なのに
どうやらすでに快感を感じているようだった。

これっ♡
ヤバい…っ♡♡♡
お尻も、ま〇こもっ♡
子宮もっ♡全部に刺激がくるっ♡

クマちゃんっ
こっちの締め付けキツすぎて
すぐに射精ちやいそっっ…!!

出していいぞっ!!
こっちにも中出しされてみたいっ♡
お尻でも
お前の、せーし受け止めたいからっ♡



お互いの混じりあった体液で下半身を濡らしながら
ヒグマちゃんが腰を抜かして、お布団に倒れ込んだ。

はあ…はあ…
また新しいことを覚えてしまった…♡

その後
アナルセックスの快感を覚えたヒグマちゃんが
たまたまアナルセックスを求めてくるようになったのは
言うまでも無いか…♡

そういえば
お尻でも処女っていうのか？

キョトンとした顔で
そんなことを聞いてくる彼女もまた可愛かった。

まあ私の初めては
全部お前にもらって欲しいな…♡



うりうりー♡
お前の大好きな
おっぱいだぞー♡

私おっぱいおつきいからなっ
むにむにされて
ちんちん気持ちいいだろー♡

まに♡

まに♡

とある日

二人でごろごろしていたら
ヒグマちゃんが急に覆いかぶさってきたかと思うと
さっと服を脱いで
僕のモノをぎゅっつと掴み、その大きな胸に挟んだ。
どうやらパイズリをしてくれるらしい。

急にどうしたの？
と、尋ねると

なんかエッチな気分になったから♡
おっぱいでされるの好きだろー？

との1コマ。

エッチな彼女を持つというのは幸せなので
何一つ、文句は無い。

されるがまま
彼女の、シルクのようにすべらかで
それでいてマシユマロの様に柔らかい
大きな胸の心地よさを
堪能させてもらっ1コマ1コマした。

まに♡

まに♡
ヒグマちゃん♡

んっ♡
やっぱりお前おっぱい好きだなー！
もうおちんちんがちがちだぞ♡

クマちゃんのおっぱいが
それだけ気持ちいいってーんだよ

んふー♡
たつくさん
むぎゆむぎゆしてあげるからなっ♡

まに♡

まに♡
まに♡

それそれ♡
おちんちん、ぎゅーって♡
おっぱいでたぶたぶ♡
気持ちいいでちゅねー♡

なんだ…
なんか始まったぞ…

おっぱいたぶたぶ♡
気持ちいいでしょー？♡

たぶたぶ♡

たぶたぶ♡

たぶたぶ♡



あ♡
もうエッチなとろとろが
出てきちゃいまちたねー！♡

こんな極上の乳で
パイズリされれば我慢なんて
できるわけがない。

おちんちん
ビクビクつてしてまちゆねー♡
せーし出ちやうのかなー？

たはは♡
ははは♡
ん♡

まに♡
まに♡

たはは♡
ははは♡



もっと
たぶたぶしてあげるから
おっぱいの中に
せーし、びゅーって
全部ないないしましよっねー♡

完全にママの気分というか……
幼児プレイになっている……♡

ほら、びゅーって♡

たぶたぶ♡

せーし♡

おっぱい♡



じょうず♥じょうず♥
そのまま、おっぱいの中で
全部びゅーってしちゃいましよっねー♥

おっぱいで
おちんちん気持ちいいねー♥
もつとむぎゅーって
してあげまちゅねー♥

むぎゅー...♥

ドポ
キュッ♥

ドポ
ドポ
ドポ♥



射精を終えた
僕のモノを挟んだまま
彼女は満足そうに
顔に飛んだ精液を舐めた。

途中から
赤ちゃん言葉になってたけど
なんだったの？

いやあ
なんか母性に
目覚めた……？
楽しかったでしょ？



もしかして
嫌だった…？

ちよつと不安そうに聞く
彼女の姿も可愛らしい。

ううん、クマちゃんの
新しい顔が見れて楽しかったよ
またしようね

そう言っで頭を撫でると
彼女は満面の笑みで頷いた。



パイズリで満足したヒグマちゃんは
さっとシャワーを浴びると
るんるんと歌いながら家事を始めた。
幸せだなあ。

夕飯を作ってくれているヒグマちゃんを
ぽーっと見つめていると
振り返ったヒグマちゃんが笑顔で言う。

夜もまた、いっぱいせつくすしようなー♡

ヒグマちゃんが彼女で
本当に幸せ過ぎる……。

いつその「1」と
一思いに孕ませて
お嫁さんにしてしまいたい……

そんな考えがふっと頭をよぎり
今日も夜がやってきた……。

さあエッチする時間だぞー♡



意気揚々と
セックスの準備をする
ヒグマちゃんのおま○こを見て思う。

クマちゃんの、おま○こって
めちやくちや綺麗だよね…

え、
そ、そうなのか？

ほとんど毎日と言っているくらい
セックスを繰り返してるのに
ヒグマちゃんの、おま〇こは

赤ちゃんみたいに綺麗なままで
旺盛な性欲と、そのギャップに僕はいつも
興奮を抑えられないでした。

きつとき
中が、お前の形になっていくみたいになさ
見た目もお前好みになるようになってるんだよ♡

そんな男冥利に尽きることを
幸せそうな笑顔で言う彼女の姿に
僕は思う。

絶対に、この娘を幸せにしよう……。

その為にも
まずは彼女を満足させてあげないと……

♡♡♡♡♡

がばーっ♡

ほらほら♡
おま○こ準備できてるからっ

中とろとろであつたかいぞー♡
おちんちん入れて
一緒に気持ちよくなるうなっ♡

ヒグマちゃん淫靡な誘いと
待ち焦がれて愛液を滴らせる
おま○こに興奮した僕は
彼女の膣内にゆっくりと挿入した。

ドキドキ♡

がばーっ♡



あ：：んっ♡
なんか、入れかたが
えっちいぞ：：♡



クマちゃん
激しいの好きだけど
入り口のとこで
ゆっくりするのも好きでしょ？

うん：：♡
好き、浅いとこ、ちゅくちゅくされると
気持ちいいとこにあたる：：♡

僕だって
彼女の弱いところを感じるよ
ちゅくちゅくと知ってるんだ。
たまには優しく攻めてあげるのも
いいんじゃないか

んんん…
もう、おかしくなるっ…



しばらく、ゆっくり
攻め続けていると
いつの間にか彼女は
いつにも増して顔を赤らめ
甘い吐息が漏れ続けていた。

おま〇こからは、甘い香りのする
濃厚な愛液が零れ落ち
クツンヨンに大きな染みを作っていた。
そるそる
奥まで激しくしてあげようか
そう思った瞬間、ヒグマちゃんが叫んだ。

おちんちん入れてっ!!
おま○こ奥まで入れて
ぐちゅぐちゅにかきまわしてよおっ

ま○こめちやくちやにしているからっ
好きなだけ中出ししていいから
おちんちん奥まで入れてえっ

はやくはやくはやく

はっ

ちゅ

ちゅ

ちよっといじわるし過ぎたかな?
でも感じすぎて、余裕が無くなった
彼女の姿も、たまらなく可愛いと思った。



ぐっと奥まで挿入されると
彼女は可愛い喘ぎ声を漏らし
おま○こから音を立てて愛液が吹き出した。

おちんちん好き♡
せつくす、すき♡ 全部すき♡
すきすきすき♡

焦らされた反動が
うわごとの様に好きと繰り返す。

クマちゃんっ
一気に激しくするからねっ！



あんっ♡ああんっ♡
焦らされてたからっ♡
おま○こすごい気持ちいいっ♡
腰振るの止まらないよっ♡

クマちゃんっ♡
そんなに激しくしたら
射精ちゃうよ……っ!!

僕も焦らしている間
おま○この入り口の
狭いところですっつと
刺激され続けていたせいで
限界だった。

いきたいっ♡
いきたいっ♡

射精したいっ
射精したいっ!



クマちゃん射精すよっ！
ま〇こに膣内射精するよっ！

おま〇こイくっ
イクイクっ♡♡
一緒にイこっ♡♡
中出ししてっ♡♡
おま〇この中にせーし出してええっ！

はちゅ♡

ちゅ♡

ミッて

ミッて



ああああんっ……♡
ま○こイくの止まらないっ……♡
おっぱいも、おま○こもっ
子宮も、からだ全部が気持ちいいっ……♡

あんなに気持ちいいっ♡

あんなに気持ちいいっ♡

びゅん♡

びゅん♡



うううっ
ちんちん、中でびゅくびゅくして…

せーしが、ま○この中に
たぱたぱって、かかる感じが
まだ抜かないで、もうちょっと
中でびゅくびゅくしてて…

彼女の可愛すぎるおねだりに
逆らうことはできず
少しの間
僕らは繋がったままでした。





ヒグマちゃんやんとセックスする度に
彼女との繋がりが深く深くなっていくのを感じる。

もうお互いに
離れることなんて絶対できないんだろっかなあ。
幸せだからいいんだけどね。

幸せを感じる程
彼女を僕だけのものにしたいたいという
欲求は強まっていった。

プロポーズしよう。
結婚して、夫婦になって
ずっとずっと彼女と一緒にいよう。

そして、その愛しい体に
僕の子供を宿してほしい、と思う。

プロポーズを決意した翌日
僕が家に帰ると
そこには様子のおかしいヒグマちゃんの姿が…

布団の上に、下半身を露出させて切なそうに喘ぐヒグマちゃん。今までに見たことの無いような扇情的な表情に興奮しつつもその身を案じると、彼女は苦しそうに答えた。

発情期が来た、と

ちよつとだけいつも発情してばかりじゃない？
と思ったが、流石に今回は違うらしい。

とにかくせつくすしたくてたまらないんだ…早くしよ？
いっぱいっぱいせつくすしよ？
おなかが、お前のせーし欲しがってる…
♡

ふと考えが過る。
それってヒトでいうと”危険日”にあたるのではないだろうか

本能的にメスの体がオスの子種を求めるそれがフレンズの発情期では…？
そう感じた僕はヒグマちゃんに妊娠の可能性を伝えてみると…

あかちゃん…：
あかちゃんできるのか…？

うん
今このままエッチしたら
クマちゃんと僕の赤ちゃんができるんだ。

あかちゃん…

彼女は受け止めてくれるだろうか
その不安が僕の表情に
出るより早く、彼女は笑顔で言った。

うん……♡
お前の赤ちゃんほしい
大好きな人の赤ちゃん……。

彼女の言葉に
体が歓喜と興奮で奮えた。

クマちゃん
ずっとずっと一緒にいようね。

うんっ♡
大好きだぞ……♡



ほら...
こんなにも欲しがってるんだぞ♡

そう言っ
て彼女がおま
まの〇こを
広げるとハ
チミツの様
な愛液がと
るとるとと
溢れ出した。

ほら、見て見て...
発情ま〇この中
におちんちん入
れたら...
絶対いつもよ
り気持ちいいぞ...♡

はぁ...♡
くはぁ...♡



お前のおちんちんと
私のおま〇こで……
あかちゃん、つくろっかな？♡

もう我慢できない
いや、する必要もないんだ。
僕が彼女のおま〇こに
自分のモノをあてがうと
溢れ出す愛液が
くちゅくちゅといやらしい音を立てた。

んっ♡
発情ま〇こに
おちんちん、入れて……っ♡

はぁ……♡

トロ

トロ……

オスを待ちわびていたおまのこは
挿入れただけで、ビクビクと震え
痛い程に僕のモノを締め付けてきた。

おちんちんっ…っ♡
入れてもらえたあ…っ♡
幸せえ…っ♡♡

ぬん…っ♡

あ…っ♡
ぬん…っ♡
ぬん…っ♡
ぬん…っ♡



あん♡あんっ……♡
ああああん♡
気持ちいいよおっ♡
おま○こ気持ちいいよおっ……♡

今からこの娘を孕ませる……
そう考えるだけで
僕の腰は止まらなかつた。

僕の全部を
愛しい彼女の全部に
沁み込ませるように
何度も何度も、乱暴に腰を打ち付ける。

気持ちいいっ♡
おちんちんとおま○こっ
一つに溶けたみたいでっ♡
こんな幸せなせつくす
ずっとずーっとしてたいよおっ♡♡

ずちゅっ♡

ちゅっ♡

ばちゅんっ♡



なんかもうダメそう！
おまのこも、子宮もっ
びくびく止まらないっおお...♡♡

せーし欲しいっ♡
あかちゃん欲しいっ♡

彼女が全身を振るわせて喘ぐと
彼女の膣内の一番奥が
僕のモノに懸命に吸いついてくるのを感じた。

クマちゃんっ
そろそろ妊娠させてあげるからっ！

ばちゃん♡

ばちゃんっ♡

くちゅ♡



出して出してっ♡♡♡
大好きなお前のせーしで
発情ま○こっ
はらませせてえっ………!!♡♡♡

射精すよっ!!
クマちゃんの子宮に
思いつきり種付けして
絶対に妊娠させるよっ!!

射精衝動の限界と同時に
僕は彼女の子宮に押し付けるよっ!!
力任せにねじ込んだ。

ずちゃっ♡

ばちゃんっ♡

ちゅっ♡





妊娠してっー！
クマちゃん……孕んでっー！

とんぱん

とんぱん

とんぱん

とんぱん

ドクドクドクドク



孕め…
クマちゃん孕め…

ドクドク

ドクドク

んんん

んんん



Curry

一滴残らず
おま○この中に
精液を注ぎ込んだ後
覆いかぶさるように
彼女の上に倒れ込んだ。

どろろお……♡

ずるりと、僕のモノが抜けると
彼女の子宮に
収まりきらなかった精液が
ごぼごぼと音を立てて零れ落ちる。

クマちゃん……
ちゃんと受精できた？

うん……♡
ぜったい、あかちゃんできた♡
お前のせいで、妊娠したぞ♡



この後も僕らは何時間も交わり続け
僕は何度も何度も、彼女の子宮に精液を注ぎ込んだ。
彼女が言うには、一番最初の膣内射精で
確実に僕の精子を受精して、妊娠していたのだという。

なんか、こころ
お前のせいしが、ま○この奥で
ちゅーってなる感じがわかったんだよー♡

どうやら、そういうことらしい。
しばらくして、彼女のお腹が大きくなりはじめ
本当に、この娘を孕ませたんだ、という感覚が
僕をこれ以上無い幸せな気持ちにさせた。

日に日に大きく膨らんでいくお腹を
幸せそうに撫でる彼女の姿を見ると
彼女と出会えたことが、本当に奇跡なんだなと実感した。

そして、月日は過ぎ…
妊娠した彼女のお腹が安定してくると…

今日はなー
ちよっと違うおっぱいだぞー♡

おっぱい
おっぱい♡

まに♡

よくわからないことを言いながら
笑顔でパイズリしてくれるピグマちゃん。

んーとな
絶対気持ちいいからな
いくぞー♡



彼女が、胸をぎゅっと抑えると
乳首から母乳が吹き出た。

ほらほら、みるくだぞー♡
さらさらすべすべで
ちんちん気持ちいだろー♡

むに♡

ふしゅあぁあ...♡

まじゅあぁあ♡

吹き出る母乳が
僕のモノにぬるぬるとまとわりつき
今までに無い不思議な心地よさに包んだ。

ほらほら♡
みるくおっぱい気持ちいだろー♡

母乳に包まれる感じが
想像以上に気持ち良くて
僕はすぐに射精衝動が
昇って来るのを感じた。

クマちゃんっ
射精る……っ！

だせだせ♡
おっぱいみるくと
おちんちんみるく混ぜちゃえ♡

まに♡
ははん♡
ははん♡
ははん♡

へっ♡
でたでたー♡
おっぱい気持ちよかったらるー♡

ドト♡
ドト♡
ドト♡

クマちゃん…
まだ射精るっ…!!

ほえ？

射精中のモノが
おっぱいと母乳に包まれる感覚で
僕はそのまま信じられない量の射精を続けた。

わっ、わっ、
なんかもつちや出てる

うううう…
クマちゃんのおっぱい…

す、すごいな
やっぱり
お前おっぱい好きすぎだろ…



母乳パイズリの想像以上の気持ち良さに
大量射精した僕のモノを
綺麗にしてあげるぞー♥といいながら
彼女が口に含んで優しく愛撫する。

飛び散った精液を舐めとりつつ
幸せそうに目を細めて喉を鳴らす彼女が

こんなに沢山でるなら
毎日みるくおっぱいしちやおっかな♥

と呟いたのは聞こえないフリをしておいた。

…体が持ちません…。

お掃除フェラをされ
次第に僕のモノは、また興奮し始める。

そして再び固くなったそれを見て
ヒグマちゃんは、にっこりと笑って言った。

あのなー
もうお腹大丈夫だから
おま○こでエッチできるんだぞー♥



僕の子供を妊娠している
ヒグマちゃんの膣内が
僕のモノをきゅっつと締め付ける。

んっ♡あんっ♡
久しぶりの
おま○こ気持ちいだろー♡

めっ♡

んっ♡

お前がはらませた
ま○こだからなーっ♡
いっぱいっぱい
気持ちよくなっついていいからなー♡

ぱちゃん♡

はち♡

はち♡
はち♡



あーんっ♡

んっ♡

私もっ♡
おちんちん久しぶりで
気持ちいいっ♡
すぐにイっちゃいそうっ♡

僕も、クマちゃんの膣内
気持ち良すぎて…
妊娠ま〇こに射精すよっ！

うんっ♡
もう一人はらませるくらい
おま〇この中に、せーし注いでっ♡

ぱちゃん♡

ほっ♡

はちゃんっ♡





この子が生まれたら
すぐに次のあかちゃんも作るーなー♡

セックスの余韻に浸りながら
すっかり大きくなったお腹を
幸せそうに撫でるヒグマちゃんを抱きよせる。

うん、ずっとずっと一緒だよ。
毎日いっぱいセックスして
沢山、子供も作って
ずーっと一緒にいようね。

僕がそういうと
彼女は、だらしないくらいに笑顔で
僕の頬にキスをした。

ずっとずーっと、大好きだぞ！



翌朝……
僕はまた
下半身の生温かい心地よさで目を覚ました。

んっ……♡
あ、起きた。

クマちゃん……
何してるのかな

ん？
ふえあちおー♡

幸せだなあ、僕は。





お わ り